

富山県鳶土工業協同組合が設立50周年

建設業界の発展と職人の地位向上へ

「義理と人情とやせ我慢」

富山県鳶土工業協同組合(富山市本郷中部、森杉嘉和理事長)は今年6月、設立50周年の大きな節目を迎える。とび・土工の職人達は『義理と人情とやせ我慢』の心意気のもと、富山市の戦後復興など大きな役割を果たしてきた。昭和49年に発足した同組合では、組合員の経済的・社会的地位の向上、福利厚生充実、若手の人材育成など、今年30周年を迎えた関連団体の若鷹会とともに、建設業界発展の一翼を担うため、精力的な活動を展開しており、今後も一致団結し、さらなる飛躍へ向けて前進する。

昭和49年6月に発足

組合員数は103社

現在の組合は、昭和49年6月に富山県中小企業

団体中央会の指導のもと、中小企業等協同組合法に基づき、各種共同事業の実施を通じて組合員の経済的・社会的地位の向上を図ることを目的とし、富山県知事の認可を受け

てスタート。組合員数は、令和5年12月末現在で103社。

主な活動は、▽とび、土木、コンクリート工事に必要な資材の共同購入▽組合員の経済的地位の改善のためにする団体協約の締結▽組合員の事業に関する経営及び技術の改善向上または組合事業に関する知識の普及をはかるための教育及び情報の提供▽労働保険事務組合としての業務▽全国建設工事業国民健康保険組合としての事業など。

今年度は、第50回通常総会で決定した令和6年度事業計画を踏まえ、教育事業では、足場の組立て等作業従事者特別教育やフルハーネス型安全帯使用作業特別教育の実施を予定。また、50周年記念事業として大阪万博建設現場視察や労働保険・労災に関する講演会の開催を計画している。



役員と来賓による開演式



ごあいさつ

富山県鳶土工業協同組合理事長

森杉 嘉和

令和6年6月20日をもちまして設立50周年を迎えます。この大きな節目を迎えることが出来ましたことは、ひとえに皆様のご支援、ご愛顧の賜物と心から感謝いたしております。

記念となる年度初め1月1日に発生した能登半島地震で、被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。そして大切な方々を無くされた皆様に、謹んでお悔やみ申し上げます。

このような状況下、記念式典を開催する事に躊躇しましたが、被災された皆様の通常の生活を取り戻すには、我々とび・土工の力は不可欠であり、組合員の一致団結を図るため記念式典を開催する決断をしました。

当組合は中小企業の集まりであり、建設業界は引き続き厳しい状況でございますが、優秀な職人や技術を絶やさないよう、これからも組合員と共に業界の発展と職人の地位の向上を目指してまいります。



富山県鳶土工業協同組合

理事長 森杉 嘉和

副理事長 中嶋 康太

理事 大野 良博 坂本 隆一 利根川 慎一 中嶋 芳規 細川 聡
前馬 武志 真木 大輔 森田 克昌 山下 善雄 山村 寛之

監事 久田 安宏

設立50周年記念式典を開催

新田知事ら100名が節目祝う

組合は2月24日、同組「立30周年の記念式典と祝賀会を富山市桜橋通りのホテルクラウンテラス富山」で開催し、組合員や新田



八朗富山県知事などの来賓ら約100名が節目を祝った。

記念式典では、森杉理事長と若鷺会の細川聡会長があいさつし、中川忠昭県議会議員、山本徹郎

議長が祝辞を贈った。祝賀会で新田知事は、「昭和49年の設立以来、50年にわたり会員同士が強い絆を持ち、各企業や業界の発展に尽力されてきたことに敬意を表する。能登半島地震からの復旧・復興では、どんな現場でも必要なのが皆様の仕事だと理解している。社会資本の整備のため、皆様

の知識や技術、そして心

能登半島地震復興支援へ 県に義援金贈呈

県に義援金贈呈

組合では、令和6年能登半島地震災害の被災者支援に役立ててもらおうと、県に義援金50万円を贈呈した。今回の記念祝賀会で、森杉理事長が新田知事に寄附目録を贈呈した。森杉理事長は「富山の復興

に役立ててほしい。復興のごく一部にしかならないかもしれないが、あとは我々が仕事で貢献したい」と述べた。新田知事は「皆さんの気持ちをしっかりお預かりする」と感謝の意を述べた。

沿革

- 昭和34年 富山市篤職組合発足 (組合長 吉野勝四郎氏 組合員数16社)
- 昭和45年10月 全国建設工事業国民健康保険組合に加盟
- 昭和46年1月 「富山県篤土工業組合」に改名 (組合長 森杉政雄氏 組合員数36社)
- 昭和46年3月 労働保険事務組合の認可を受け、組合員の労災、雇用保険の事務代行業務の取扱い開始
- 昭和49年6月 富山県篤土工業協同組合発足 (組合長 美濃利治氏 組合員数121社)
- 平成6年2月 富山県若鷺会発足
- 平成21年3月 事務所を富山市本郷中部74に移転
- 平成27年4月 富山県篤土工業一人親方組合を設立

あいさつする森杉理事長

組合員が木遣りを披露



新田知事に義援金を手渡す森杉理事長(写真左)

県若鷺会が設立30周年

木遣り・纏ふり・梯子乗りを披露

富山県若鷺会(細川聡会長)は平成6年2月に発足し、今年で設立30

周年の節目を迎えた。記念式典に先立ち会場1階のロビーでは、会員による木遣り・纏(まとい)ふり・梯子乗りが披露された。約6メートルの梯子の上で「遠見」「鯀(じやち)」「背亀」などの技が次々に繰り出され、伝統の技で参加者を魅了した。

式典のあいさつで細川会長は、「若鷺会は、古き良き鷹の伝統・芸を学び、披露し、後世に継承して行く組織。変わりゆく時代の中でも、若鷺会一同は変化に流されることなく、先陣が築き上げたものを大事にし、『義理と人情やせ我慢』を信条に、これからも活動し、伝統を継承していく」と意気込みを述べた。現在の会員数は24名。毎週水曜日には、木遣り・

あいさつする細川会長



ロビーで披露された梯子乗り



纏ふり・梯子乗りの練習。び技能検定の講習において指導員なども務めている。ントへの出演のほか、とる。